

体験談 3

『ドクターへ相談に行こうという覚悟！』

子供の成長が気になったら、まずは一人で、そして家族ですごく考えるのですが、私の場合は海外出産だったという事もあり、まずは日本語で相談したい！という思いというより焦りがありました。そもそも、風邪や胃腸炎のように薬でどうこうなるものではないという事だけは思っていて、それは、裏を返せば結構厄介な事、とも薄々気づいてはおりました。

だからこそ、専門家に相談すれば、この「他の子と違ううちの子とモヤモヤが何なのか？」という事をサッと見抜いてくれるのではないかな？という淡い期待も抱いてました。でも、それは同時に、相談に行くという時点で、全てを受け入れる覚悟も出来ていました。だから、正直、スッキリさせてほしかったという気持ちがすごくありました。

でも、相談一つとっても時間のかかる、そして、忍耐の必要なものでした。私の場合は、3歳でドクターに相談に行きましたが、結局、その時二人のドクターに会ったものの、二人の意見は真逆のものでした。相談に行って、迷いという事がまさか、のしかかってこようとは夢にも思っていなかったです。そして、もう一つは相談に行く時期の事も思いました。3歳で行きましたが、「判断するにはまだ早い。」とも言われました。

親としては、少しでも早く障害を見つけて、少しでも早く手を打ち始めたくて、だから、専門家に相談に行こうと決めたのですが、なかなか自分たちが思っていた通りにはなりません。今思えば、少しくらい早くても大勢に影響は全くないのですが、少しでも早く手を打ちたいから頑張って覚悟決めて行ったのに、結局わからないのか、、、という少し落胆に似た気持ちがあった事も事実でした。

結局、相談に行ったドクターは四人でした。この四人のドクターにかかるのに、一年かかりました。その時間と対比し、四人のご意見も全員同じだったらまだ納得するところが大きかったのですが、それはなく、四人とも少しずつ違っておりました。でも、共通する部分、そこはありました。何らかの障害を抱えているという点です。

相談へ行くと決めた時の覚悟が、やっと形になった感じがしました。時間はかかり、忍耐は必要ですが、でも、一つの区切りという感じもしています。その区切りは、本人のこれからの成長への“新たな覚悟、”という意味でもあると思いました。

